

# 登山月報

公益社団法人になった日山協	1
平成25年度事業計画・収支予算を承認	2
・平成24年度第2回理事会報告	2
・平成24年度臨時総会報告	3
・平成25年度主な事業計画	5
スロベニアにおけるUIAA登山委員会参加報告	6
「みんなで遊ぼう! なすかし雪遊び隊」報告	8
第53回 Mountain World	9
JMA、寄贈図書、編集後記	11

## 公益社団法人になった日山協

公益社団法人日本山岳協会 会長 神崎忠男

登山が変わり多様化し、山岳団体が新たな法律の施行に準拠して組織が改められ登山界が変遷の時代迎えた。

「変わらなくっちゃも変わらなければ…」の意味深長な言葉も法律によって変えられた。考え方によっては、登山界に限らず、スポーツ、文化などの法人団体が、自分たちだけのことしか考えず、社会的責任も顧みずバラバラに民主主義や自由を享受してきた体制にお灸を据えられたという見方もできる新公益法人法だが、社会に責任をもち、行動にも強い使命感を発揮して社会環境に配慮した体制の観点でお灸を据えられたとも観念して、登山界においても新しい時代を意識した登山環境づくりを求められることとなった。

そんな背景の中で、日本山岳協会も公益社団法人として新たに船出をしました。公益社団法人になったこれからの日山協については、ここに至るまでに登山月報でも広報し、理事会、評議員会などでもその都度話し合い、心構えは整っていると理解していますが、これからの重要で正念場です。まずは意識改革に前途の期待が大きく、新たな考え方や実行力による実践が新生日山協の盛衰を分ける結果になると思います。

この新生公益社団法人の対策として、新たな組織、体制、環境づくりにプロジェクト・チームを立ち上げ、組織の見直し、事業の見直し、財政基盤の確保、管理体制の強化を見据えた、組織、事業、財政、総合の4つのワーキング・グループを編成した。各県岳連の活性化、委員会活動の強化の飛躍を図るために、まず理念を明確にし、目的、目標を定めて、一定の方向に向かう一体化を図り、社会の一員として責任と使命を果たす環境を整えていきたい。

また、社会環境や登山界がよくならなければ自分たちの足元もよくなれないという考え方から、社会に貢献し、登山界に奉仕して登山環境を整え、自分たちも



潤うという、共に生きる還元共存の社会環境、登山界の秩序を整え日山協の躍進にもつなげたい。

目的としては、社会に親しまれる登山、期待される登山界づくりを意欲的に進め、登山界のリーダーシップが取れる日山協を目標に全国規模で山岳環境づくりを始動させ、社会の一員としての責任や使命を果たしていきたい。

登山は他のスポーツと違い、勝ち負けというより「生きる力」そのものの体験スポーツです。登山が社会生活に密着していくには、JMAだ、JACだ、JWAFだ、HAJ、HAT-Jだといった垣根をはずして登山界がひとつになって社会と向き合っていかなければならない。また、山岳組織に入っていようがまいが、自然に親しみ、山を愛し、登山をする登山者、所謂、未組織登山者と呼ばれてきた登山者もみんな登山界の一員として、登山者としての責任を自覚してもらいたい。その一つの考え方として登山者登録制の導入。山に登るという権利に対して登山者としての義務を果たす環境を理解していただき、自然保護、安全対策の振興、より有利な山岳保険の実現を目指すなど、幅広い登山環境の整備をみんなで進めていきたい。

最後に多様化した登山を卓越登山、健康登山、競技登山分野に分け、登山界全体の躍進につなげたい。

# 平成 25 年度事業計画・収支予算を承認

—平成 24 年度第 2 回理事会・臨時総会—

## 平成 24 年度第 2 回理事会報告

日 時 平成 25 年 3 月 10 日(日)

10 時 30 分～12 時 40 分

場 所 岸記念体育会館 101 号室～103 号室

### 1. 開 会

尾形専務理事の挨拶で開会。

### 2. 神崎会長挨拶

2 月下旬から 10 日間ほど入院した。重要な時期に入院などして迷惑をかけて申し訳ない。活動の源は健康なので皆さんも健康には十分に気を付けて頂きたい。いよいよ本協会は 4 月 1 日から公益社団法人としてスタートする。新公益法人となって何が変わるのかを意識することが大切である。これからは社会に貢献し、社会に奉仕していくような組織活動が求められる。登山界が一つになって社会の一員として責任を全うしていくためには本会が登山界のリーダーシップを取って、牽引していく必要がある。そのためにも新たに立ち上げた 4 つのワーキング・グループで、出来るものから早急に課題解決を図りたい、と挨拶。

### 3. 会議の成立状況

尾形専務理事から定款第 26 条に基づき、定足数並びに出席者・委任者数を発表し、会議が有効に成立した旨報告される。

定 足 数：21 名(理事定数 31 名の 3 分の 2 以上)

出席者数：28 名、委任 3 名、計 31 名

### 4. 出席者

神崎忠男会長、内藤順造、國松嘉伸、八木原罔明、松元邦夫各副会長、尾形好雄専務理事、小野倫夫、服部一雄、尾形一幸、西内博、仙石富英、佐藤光由、石倉昭一、高山雅夫、宮本義彦、高田和彦、安藤武典、堀井啓介、伊藤克己、遠山誠之介、蓬郷隆治、京才昭、足達敏則、田場典淳、相良忠麿、寺内丈行、永井豊、北山真各理事 以上 28 名

委任者：水島彰治、堀井昌子、谷口浩平 以上 3 名

同席者：福田昇、岡本忠良両監事

### 5. 議長選出

定款第 25 条の規定により神崎会長を議長に選出

### 6. 議事録署名人の選出

定款第 30 条の規定により相良忠麿(特別)常務理事及び足達敏則(福岡)理事を指名

### 7. 議 事

(1)第 1 号議案 平成 24 年度事業経過報告について

尾形専務理事から資料を事前配布しているため、詳細説明は割愛し、各担当常務理事から補足説明の後、質疑を受けたいと説明し、承認が諮られた。

●第 1 号議案、提案通り承認。

(2)第 2 号議案 平成 24 年度会計経過報告について

相良常務理事より議案書に基づき、平成 25 年 1 月 31 日までの収支報告について説明され、承認が諮られた。

●第 2 号議案、提案通り承認。

(3)第 3 号議案 平成 25 年度事業計画(案)について

尾形専務理事から平成 25 年度の事業計画について説明した後、各専門委員会の担当常務理事から補足説明を行い、承認が諮られた。

●第 3 号議案、提案通り承認。

(4)第 4 号議案 平成 25 年度収支予算(案)について

相良常務理事より平成 24 年 11 月の臨時理事会で承認された平成 25 年度予算編成方針に基づき、収支均等を原則とした収支予算について説明し、承認が諮られた。

●第 4 号議案、提案通り承認。

(5)第 5 号議案 平成 24 年度共済会事業経過報告について

(6)第 6 号議案 平成 25 年度共済会事業計画(案)及び収支予算(案)について

議長より第 5 号、第 6 号議案とも関連議案なので、一括説明した後、質疑を受けたいと提案され、了承された。

尾形専務理事より議案書に基づいて説明し、承認が諮られた。

●第 5 号議案、第 6 号議案とも提案通り承認。

(7)第 7 号議案 正会員の承認について

尾形専務理事より議案書に基づいて正会員候補者の推薦が諮られた。

●第 7 号議案は、提案通り承認された。

(8)第 8 号議案 参与候補者の推薦と参与委嘱の終了について

尾形専務理事より議案書に基づいて先ず参与候補者の推薦について承認が諮られた。

●第 8 号議案の参与候補者の推薦は、提案通り承認。

次いで長野県山岳協会から提出された参与推薦取消しの文書を受けての参与委嘱を終了することについて承認が諮られた。

●第8号議案の参与委嘱の終了に関しては、質疑応答の後、提案通り参与委嘱を終了することを承認。

## 8. その他

・B級審判員の認定講習会について質疑があった。

## 9. 報告

議長より報告事項については、総会の報告事項と重複するので、本日の総会で行う事が諮られ、了承された。

## 10. 閉会

---

---

# 平成24年度臨時総会報告

---

---

日 時 平成25年3月10日(日)

13時15分～14時40分

場 所 岸記念体育会館101～103号室

## 1. 開会

尾形専務理事の挨拶で開会

## 2. 会長挨拶

新公益法人への移行に関してはこれまでもくどいほど話してきた。これからは社会に親しまれ、生活に密着した登山活動を担う責務がある。そのためには本会が登山界のリーダーシップをしっかりと取って登山界が一つになって社会に向かって行かなければならない。時代に即した47プラスα体制の構築や登山者の登録制度などは早急に取り組んでいきたい。また、2020年オリンピック・ドリームに向けたNFとしての体制整備や施設の整備なども早急の課題である。役員、正会員の皆さんには自信と誇りをもって新たな夢に向かって邁進して頂きたい、と挨拶。

## 3. 会議の成立状況

尾形専務理事から定款第26条に基づき、定足数並びに出席者、委任者数を発表し、会議が有効に成立した旨報告される。

定 足 数：38名

(正会員、特別会員の定数56名の3分の2以上)

出席者数：46名、委任状9名、欠席1名、計56名

## 4. 出席者

神崎忠男会長、内藤順造、國松嘉仲、八木原 罔明、松元邦夫各副会長、小野倫夫、服部一雄、高橋時夫、佐々木義宗、清野孝、尾形一幸、西内博、仙石富英、佐藤光由、石倉昭一、高山雅夫、阿部信一、宮本義彦、松

本睦男、高田和彦、牧野治生、滝田博之、安藤武典、亀井正明、堀井啓介、伊藤克己、四方宗和、山並久次、中西研一、藤本直民(代理)、遠山誠之介、亀尾崇、蓬郷隆治、京才昭、小林弘之、木村康男、宮崎良平、足達敏則、後藤利雄、刃賀進司、田場典淳、尾形好雄、相良忠麿、寺内丈行、永井豊、北山真 以上46名

委任者：水島彰治、松本実、峯本典寛、多田修、溝上春見、工藤文昭、鮫島寛行、谷口浩平、堀井昌子 以上9名

同席者：福田昇、岡本忠良両監事、相澤岩男(宮城)

## 5. 議長の選出

定款第25条の規定により神崎忠男会長を議長に選出

## 6. 議事録署名人の選出

定款第30条の規定により佐藤光由及び滝田博之を指名

## 7. 議 事

(1)第1号議案 平成24年度事業経過報告について

尾形専務理事から資料を事前配布しているので、詳細説明は割愛し、補足説明の後、質疑を受けたいと説明し、承認が諮られた。

●第1号議案、提案通り承認。

(2)第2号議案 平成24年度会計経過報告について

相良専務理事より議案書に基づき、平成25年1月31日までの収支報告について説明され、承認が諮られた。

●第2号議案、提案通り承認。

(3)第3号議案 平成25年度事業計画(案)について

尾形専務理事から平成25年度の事業計画方針について説明した後、各専門委員会の担当専務理事から補足説明を行い、承認が諮られた。

●第3号議案、提案通り承認。

(4)第4号議案 平成25年度収支予算(案)について

相良専務理事より平成24年11月の臨時理事会で承認された平成25年度予算編成方針に基づき、収支均等を原則とした収支予算について説明し、承認が諮られた。

●第4号議案、提案通り承認。

(5)第5号議案 平成24年度共済会事業経過報告について

(6)第6号議案 平成25年度共済会事業計画(案)及び収支予算(案)について

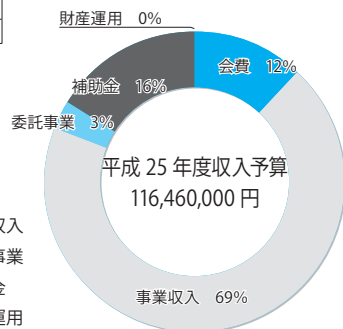
議長より第5号、第6号議案とも関連議案なので、一括説明した後、承認を諮りたいと提案され、了承さ

平成25年度(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

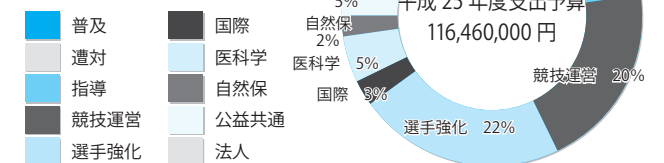
科 目	収支予算書<資金収支ベース>			収支予算書総括表<資金収支ベース>			
	予 算 額	前年度予算額	増 減	公益目的 事業会計	公益共通会計	法人会計	合 計
I. 事業活動収支の部							
1. 事業活動収入							
01 基本財産運用収入	100,000	120,000	-20,000	0	0	100,000	100,000
02 会費収入	14,480,000	14,920,000	-440,000	0	0	14,480,000	14,480,000
03 事業収入	80,290,000	95,040,000	-14,750,000	64,810,000	6,190,000	9,290,000	80,290,000
共済会委託事業費	40,000,000	40,000,000	0	32,030,000	1,990,000	5,980,000	40,000,000
登録料収入	3,310,000	2,770,000	540,000	0	0	3,310,000	3,310,000
参加者負担金収入	26,740,000	26,170,000	570,000	26,740,000	0	0	26,740,000
協賛金収入	5,440,000	14,100,000	-8,660,000	5,440,000	0	0	5,440,000
広報出版事業収入	4,200,000	3,500,000	700,000	0	4,200,000	0	4,200,000
その他事業収入	600,000	8,500,000	-7,900,000	600,000	0	0	600,000
04 受取委託金収入	2,900,000	2,900,000	0	2,900,000	0	0	2,900,000
日本スポーツ振興センター委託金	2,900,000	2,900,000	0	2,900,000	0	0	2,900,000
05 補助金等受入収入	18,690,000	26,600,000	-7,910,000	18,690,000	0	0	18,690,000
JOC委託事業収入	2,800,000	4,400,000	-1,600,000	2,800,000	0	0	2,800,000
国民体育大会補助事業収入	4,200,000	4,600,000	-400,000	4,200,000	0	0	4,200,000
日本体育協会補助金	1,390,000	400,000	990,000	1,390,000	0	0	1,390,000
スポーツ振興くじ補助金	5,600,000	12,200,000	-6,600,000	5,600,000	0	0	5,600,000
ワールドゲームズ協会補助金	1,000,000	0	1,000,000	1,000,000	0	0	1,000,000
日本スポーツ振興基金補助金	3,700,000	5,000,000	-1,300,000	3,700,000	0	0	3,700,000
事業活動収入計	116,460,000	139,580,000	-23,120,000	86,400,000	6,190,000	23,870,000	116,460,000
2. 事業活動支出							
01 事業費支出	86,400,000	107,930,000	-21,530,000	86,400,000	0	0	86,400,000
普及事業費<公1>	13,530,000	18,640,000	-5,110,000	13,530,000	0	0	13,530,000
遭難対策事業費<公1>	5,990,000	5,830,000	160,000	5,990,000	0	0	5,990,000
指導事業費<公1>	7,300,000	5,890,000	1,410,000	7,300,000	0	0	7,300,000
競技会運営事業費<公1>	23,300,000	38,820,000	-15,520,000	23,300,000	0	0	23,300,000
競技力向上事業費<公1>	25,320,000	26,650,000	-1,330,000	25,320,000	0	0	25,320,000
国際交流事業費<公1>	3,020,000	4,540,000	-1,520,000	3,020,000	0	0	3,020,000
医科学事業費<公1>	5,430,000	4,990,000	440,000	5,430,000	0	0	5,430,000
自然保護事業費<公1>	2,510,000	2,570,000	-60,000	2,510,000	0	0	2,510,000
02 公益共通支出<公共>	6,190,000	10,810,000	-4,620,000	0	6,190,000	0	6,190,000
広報出版事業費支出	6,190,000	10,810,000	-4,620,000	0	6,190,000	0	6,190,000
03 管理費支出<法>	23,870,000	20,840,000	3,030,000	0	0	23,870,000	23,870,000
人件費	6,680,000	5,750,000	930,000	0	0	6,680,000	6,680,000
事務諸費	2,920,000	3,070,000	-150,000	0	0	2,920,000	2,920,000
運営費	14,270,000	12,020,000	2,250,000	0	0	14,270,000	14,270,000
事業活動支出計	116,460,000	139,580,000	-23,120,000	86,400,000	6,190,000	23,870,000	116,460,000
事業活動収支差額	0	0	0	0	0	0	0
II. 事業活動収支の部							
1. 投資活動収入							
01 特定資産取崩収入	0	0	0	0	0	0	0
投資活動収入計	0	0	0	0	0	0	0
2. 投資活動支出							
01 特定資産取得支出	0	0	0	0	0	0	0
投資活動支出計	0	0	0	0	0	0	0
投資活動収支差額	0	0	0	0	0	0	0
III. 財務活動収支の部							
1. 財務活動収入							
01 借入金収入	0	0	0	0	0	0	0
財務活動収入計	0	0	0	0	0	0	0
2. 財務活動支出							
01 借入金返済支出	0	0	0	0	0	0	0
財務活動支出計	0	0	0	0	0	0	0
財務活動収支差額	0	0	0	0	0	0	0
収入合計	116,460,000	139,580,000	-23,120,000	86,400,000	6,190,000	23,870,000	116,460,000
支出合計	116,460,000	139,580,000	-23,120,000	86,400,000	6,190,000	23,870,000	116,460,000
当期収支差額	0	0	0	0	0	0	0
前期繰越収支差額	13,460,787	13,460,787	0	0	0	0	13,460,787
次期繰越収支差額	13,460,787	13,460,787	0	0	0	0	13,460,787

平成25年度収支予算

収入予算	会費	14,480
	事業収入	80,290
	委託事業	2,900
	補助金	18,690
	財産運用	100



支出予算	普及	13,530
	遭難	5,990
	指導	7,300
	競技運営	23,300
	選手強化	25,320
	国際	3,020
	医科学	5,430
	自然保	2,510
	公益共通	6,190
	法人	23,870



れた。

尾形専務理事より議案書に基づいて説明し、承認が諮られた。

●第5号議案、提案通り承認。

●第6号議案、提案通り承認。

(7)第7号議案 正会員の承認について

尾形専務理事より議案書に基づいて正会員候補者の承認が諮られた。

●第7号議案、提案通り3氏が承認された。

(8)第8号議案 参与候補者の推薦と参与委嘱の終了について

尾形専務理事より議案書に基づいて先ず参与候補者の承認が諮られた。

●第8号議案、提案通り5氏が承認された。

次いで長野県山岳協会から提出された参与推薦取消しの文書を受けて、参与委嘱を終了することについて承認が諮られた。

●第8号議案、提案通り参与委嘱を終了することを承認。

## 8. 報告

(1)公益社団法人移行について

尾形専務理事より「変わる！日山協」のリーフレットを基に移行への経過報告、公益社団法人とは、(公

社)日本山岳協会のしくみと体制、(公社)日本山岳協会が目指すもの、移行時の役員等について説明があった。

(2)第52回全日本登山体育大会について

西内常務理事より開催概要の説明があり、多くの参加を呼びかけられた。

(3)UIAA,UAAA総会・理事会報告

報告は資料を読んで頂き、平成26(2014)年にUAAA創立20周年記念総会を広島で開催されることが報告された。次いで、神崎会長からUAAA創立の経緯から今日までの活動について補足説明があった。

(4)変わる！日山協プロジェクト・チームについて

國松副会長より資料に基づきプロジェクト・チーム立ち上げの経緯と活動現況及びワーキング・グループ(WG)について説明があった。

次いで各WGのリーダーである3副会長から組織WG(八木原副会長)、事業WG(松元副会長)、財政WG(内藤副会長)の各々の取り組み状況の報告があった。最後に尾形専務理事から参考資料のアクションプラン2013～2020(案)について説明があった。

※閉会の前に東日本大震災で被災された方に対して黙祷が捧げられた。

## 9. 閉会

# 平成25年度主な事業計画

### 1. 会議・他

- ・総会 5/26(日)
- ・理事会 5/11(土)、5/26(日) (総会終了後)、11/17(日)、3/9(日)
- ・代表者会議(仮称) 26年2/16(日)
- ・全国参与会 11/8(金) 茨城県水戸市
- ・顧問・参与会 26年1/18(土)(新春懇談会)
- ・新春懇談会 26年1/18(土)アルカディア市ヶ谷

### 2. 専門委員会総会

- ・競技委員会 4/7(日) 東京
- ・指導委員会 6/8(土)～9(日) 東京
- ・遭難対策委員会 6/29(土)～30(日) 大阪
- ・国際委員会 6/22(土)～23(日) 東京
- ・自然保護委員会 9/14(土)～16(日) 埼玉  
(名称：山岳自然保護の集い・中央大会)

### 3. 青少年育成事業

- ・第56回全国高等学校登山大会

8/2(金)～6(火) 大分県、九重連山

- ・第4回全国高等学校選抜クライミング選手権大会  
12/22(日)～23(日) 加須市市民体育館
- ・「みんな集まれ！ジュニア登山教室 in 立山」  
8/11(日)～14(水) 国立立山青少年自然の家、立山周辺
- ・「みんな集まれ！なすかし雪遊び隊」  
3/\*(\*)～\*(\*) 国立那須甲子青少年自然の家  
(期日未定)
- ・ジュニア普及情報交換会  
2/15(土) 国立オリンピック記念青少年総合センター

### 4. 安全登山啓発事業

- ・冰雪技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成講習会)  
4/28(日)～29(日) 富士山
- ・登攀技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成

- 講習会)
  - 10/12(土)～13(日)岩手県営運動公園
- ・氷雪技術研修会(A級主任検定員・上級指導員養成講習会)
  - 2/15(土)～16(日) 大山
- ・中・高年安全登山指導者講習会
  - ①東部地区(愛知・宇連山系)
    - 9/27(金)～29(日)
  - ②西部地区(熊本・阿蘇山)
    - 10/11(金)～13(日)
- ・山岳レスキュー講習会
  - ①西部地区(富山県・国立登山研修所)
    - 8/23(金)～25(日)
  - ②東部地区(群馬県・土合山の家)
    - 1/24(金)～26(日)
- ・オーバーナイト・テントフォーラム
  - 4/20(土)～21(日)埼玉・長瀬
- ・第52回全日本登山体育大会
  - 11/8(金)～10(日) 茨城県・奥久慈周辺
- ・第52回海外登山技術研究会
  - 2/22(土)～23(日) 八王子セミナーハウス
- ・第27回海外登山女性懇談会
  - 12/10(火) 国立オリンピック記念青少年総合センター

- ・平成25年度全国山岳遭難対策協議会
  - 7/3(水) 東京・文部科学省講堂

## 5. 競技運営事業

- ・第27回リード・ジャパンカップ
  - 6/1(土)～2(日) 東京都東久留米市
- ・第16回JOCジュニアオリンピックカップ
  - 8/10(土)～12(日) 富山県南砺市桜が池cc
- ・ルートセッター全国研修会
  - 8/13(火)～15(木) 富山県南砺市桜が池cc
- ・第68回東京国体山岳競技大会
  - 10/4(金)～6(日) 東京都東久留米市
- ・2013クライミング日本選手権
  - 1/4(土)～5(日) 東京都東久留米市
- ・第9回ボルダリング・ジャパンカップ
  - 2/\*(土)～\*(日)(未定)
- ・2013ユース日本選手権
  - \*/\*(土)～\*(日)(未定)

## 6. 競技力向上事業

- ・世界ユース選手権大会
  - 8/15(木)～19(日) カナダ
- ・第9回ワールドゲームズ大会
  - 8/3(土)～4(日) コロンビア
- ・アジア選手権大会
  - \*/\*(\*)～\*(\*) (未定)

## スロベニアにおけるUIAA登山委員会参加報告

- 場 所:** スロベニア Slovenia Bavsica登山研修所  
Bavsicaの登山研修所はJulian Alpsの西方にあり、スロベニア山岳協会がガイドや山岳リーダーなどを養成する施設である。
- 期 日:** 3/9～10 2日間
- 主 催:** スロベニア山岳協会PZS  
(Alpine Association of Slovenia)
- 開催団体:** 登山委員会MountCom, 標準化教育委員会TSP, 法律専門ワーキングLEWG, TVWG(Traditional Values)
- 参加者:** 委員長Pierre 他20名

会議は、委員長Humblet氏から参加者の紹介、人事異動報告から前回議事録(チリのAlfosoで開催)の確認などから始まった。UIAA Office managerのAhuja氏も加わり、現在UIAAにおけるトップマネジメントな

らびにアムステルダム総会での当委員会の関連事項の説明がなされた。

続いて、会議のホストを務めるPZSのŠerkezi氏より、スロベニアの歴史、地理の紹介の後、PZSを中心とした登山活動史が語られた。登山を重要な観光産業と位置づけているようで、様々な活動を納めたDVDや、スフィンクスと呼ばれる岩場へのアタックを新旧4人の登山家が演じるビデオが上映された。4.5G程のファイルにコピーさせていただいたので、希望者には配布したい。

その後、標準化教育委員会TSPと法律専門ワーキンググループLEWGに分かれたグループ討議となった。

私の参加した法律系のLEWGでは、今回参加できなかったXabier代表に代わって、イギリスから、Caving Rescueに属するベテランレスキューアーであるとともに、地方判事を務めるRich氏が参加し、進行を務め

た。支障のない範囲で、その内容を紹介する。

当会議は正式には年1回（小会議を含めると2回）の会議のため、前回議事録はセルビアのNovisadで開催された会議の議事録を確認し、その内容について話し合いが行われた。そこでは、事故判定に対する国別の解釈の差を、2国間で比較し、どちらがより被災者側に立つか比較判断、訓練中の落石事故における過失責任に対する解釈、山岳スキー中にビーコンを携帯せずに雪崩に遭遇し妻を失った場合の判決、人工壁での事故解釈、さらには、登山者のアクセス権の拡大と土地所有者負担の問題や、自然保護の立場とアクセス権との確執などに対する国別解釈の温度差など、非常に広範囲に及んだ。

今回の会議では、本会議に先立ち、私の進める国際山岳事故データベースの構築にあたって作成した、データ交換のための国際協定書の内容を法的立場から検討することをお願いした。もちろん、専門外の間人が作ったものであるから、Rich氏から法的立場での指摘と質問に頭が真っ白になっている姿を想像してほしい。本会議での説明には、Rich氏の手直しを前提に、これらの問題点においては、ほとんど指摘されることはなく、承認された。

今会議の主要議題は、当グループのWragg氏によりまとめられた。ベルギー、フランス、オランダ、英国、スペイン、アメリカで発生した人工壁事故での17事例の訴訟問題に関するものであった、人工壁の歴史、その発展上の問題点、各国での訴訟に至った事故発生状況、訴訟内容と判決事例から、総合的な結論に導いた報告書である。そこには、ヒューマンエラーによる様々なビレイミス、トレーニング訓練中の操作ミスなどが多いこと、特に後者では商業的な訓練事故より学校での訓練中の事故が重いと解釈している。この件は、我が国も同じであろう。その詳細を紹介できないのが非常に残念である。他に検討された内容は、権利放棄と免責問題であった。

各国の判事から弁護士までが参加するLEWGの活動内容が非公開で行われているのは戦略的な意味合いが強い。しかし、広範な立場から山岳遭難事故に関する共通認識を持ち合う情報交換の強みは、人工壁事故に絞っても、より広範囲な解釈が可能となり、日山協でも大いに見習うべきかもしれない。

翌日の会議は、国際山岳事故データベースの構築に向けて、上述の協定書の検討から始まり、事故データのウェブ入力システム開発に向けたプログラ

ム構造の説明と見積もり、事故アンケート項目の一部見直しに関する説明と議論を行った。これらの検討内容については、UIAAニュースレターに詳しくまとめられている。[http://theuiaa.org/news\\_436\\_International-mountain-accident-database-proposed-by-Mountaineering-Commission](http://theuiaa.org/news_436_International-mountain-accident-database-proposed-by-Mountaineering-Commission)

一方、アンケート項目の一部見直しとして、山岳関係者ばかりか、一般の欧米人が好んで議論するのが「HikingとWalking」との違いである。いずれも、日本の縦走に相当するケースに使用されるため、我が国におけるピクニック的なイメージは薄いのが、曖昧に使用される。この2種類に関係する用語だけでも、日程、距離、場所、難易度、他の活動との合体などで分かれて22もの項目となる。結局スペースがないこともあり、Hiking, Multi-day hiking/trekの2項目とした。次の問題は、委員会の要請を受けて作ったGPS測定による緯度、経度記入項目である。これは、世界測地系WGS84が世界標準と思っていた私の思い込みミスであった。WGS84は、ヨーロッパでは使われるところが少ないようで会議参加者の使用する測地系も異なっていた。加えて、座標系表記法h dddmm ss.s（h：例えば北緯/東経など、ddd度、mm分、ss.s秒）やhddd、ddddなど無数にあり、どの様に対応すべきか、調査用紙のスペース不足で、未だ悩んでいる。

最後に、以前より問題点の指摘がなされてきた8000m級14座の指定について、新規追加のあり方について、登山および地形学の立場から作られた新たな基準をArugaの提案する手法（CRITERIA for 8000ers）を基に議論した。

会議が終了すると、この地はオーストリア南部にあるためか、多くの参加者が自家用車で参加していた。そのため、解散も一瞬で終わり、僅かな空路組も慌ただしく消えて、Bavsicaの峡谷にある研修所に静寂が戻っていった。（文責：青山千彰）

**極北の秘境で山と温泉と川下りを楽しむ**

**カムチャッカ2つの名峰登頂と世界遺産の  
火山群展望フラワー・ハイキング 8日間**

**発着地 東京 旅行代金 ¥360,000**

**出発日 7/10(水)・7/14(日)・7/17(水)・8/7(水)**

※燃油サーチャージ(2013年2月20日現在:目安約8,800円)が別途必要です。  
観光庁長官登録旅行業第490号/日本旅行業協会正会員 ©ボツフ保証会員

 **ALPINE ツア サービス 株式会社**

〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 第7東洋海事ビル4階 ☎03-3503-1911  
大阪 ☎06-6444-3033 名古屋 ☎052-581-3211 福岡 ☎092-715-1557  
e-mail: info@alpine-tour.com http://www.alpine-tour.com

## 「みんなで遊ぼう！ なすかし雪遊び隊」 報告

2012年度からの新しい企画である「みんなで遊ぼう！ なすかし雪遊び隊」が、3月27日から28日にかけて栃木県山岳連盟との共催、(株)山と溪谷社の協賛、福島県山岳連盟の協力を得て、那須甲子青少年自然の家をベースに行われた。

関東地区を中心に募集し、15名の申し込みがあったが、5名がキャンセルになり、10名(男子8名、女子2名)の子供たち(小1～小4)が参加し、1日目の雨天にもかかわらずほぼ計画通りに無事終了した。今回は特別に聖徳大学の教職課程の女子大生3名も参加して頂き、子どもたちと年齢が近いこともあり、活躍して頂いた。

日山協からは、本木顧問他担当常務理事、常任委員等4名、栃木県山岳連盟からは小島守夫、渡部逸郎両氏が福島県山岳連盟からは尾形一幸会長が参加された。

27日午前11時前に、東京からの参加者が小金井經由新宿西口からのバスで到着した。受付後、開校式を行った。

挨拶、オリエンテーションの後、自己紹介、班編成を行い、まず名物の昼食をとった。ラーメンを3杯もお代わりする子もいてみな満足の様子であった。自然の家の中野先生の指導で自然観察に出発した。出発する頃にはかなりの本降りとなったが雨具を着用し自然の家の林で木の特徴や枝のにおいなど全員が体験しながら勉強した。あまり良い条件ではなかったが先生が雨をまったく気にせず熱心に指導されたのでみんな引き込まれたようであった。いったん自然の家に戻り、ソリを借り出し今度はソリ滑りに向かった。下見の時は一面の雪であったが3月は暖かく、近くの雪が消え、少し登ったせまい斜面でソリ滑りを楽しんだ。滑りすぎると道路に落ちるのでストッパー役は大変であった。雨はまだ降っていたので終了後、みなで乾燥室に濡れ物を干し、先に風呂に入ってから夕食となった。

振り返りでは、自然観察の時に習った木の名前をみんなに書いてもらったが、たくさん覚えている子もいて驚いた。その後、プレイホールでなすかしチャレランのゲームやお姉さんたちが考えてきたゲームをしたが、しっぽ取りやぞうきんがけレースは年寄りにはハードなゲームであった。部屋に戻り、少しはしゃいだが、高学年の子がいないのですぐに静かになった。

28日は朝の集いに参加し、ラジオ体操をしてから



朝食をとった。ここは焼きたてのパンが食べられる珍しい自然の家で、おいしく頂いた。雪上運動会を予定していたが広い平らな雪面がないので、スノーシューをはいて雪を求めて高みを目指した。結局、パノラマ展望台まで登った。天気は良いので、展望台でイグルーを作り、お茶を沸かしておやつを食べ、雪合戦をして遊んだ。

展望台から下山し、ソリ滑りの続きと思ったが泥で汚れたスノーシューの片付けや帰る荷物のパッキングなどを考え、行動はここまでとし、荷物を整理してから昼食をとった。午後に閉校式を行い、参加者から感想を発表した後、西内常務理事からの講評があり、小島さんから一人一人に修了証が手渡された。子供たちはバスで帰京した。

今回雪遊び教室は、新しいプログラムであり、積雪期の子供向けのアウトドア教室としてどのような内容が適切かを検証するのが目的で行われた。1日目の天気が良くなかったが寒くなかったこと、子どもの参加が少なかったこと、女子大生の参加があったことなどにより余裕を持った運営ができたが、雪の多少を含め夏以上に気象などの条件に影響されそうである。また、理由は明確でないがキャンセルがでたことや、福島で開催ということで放射能で敬遠された可能性もあり、募集については課題を残した。

将来的には日山協の各ブロックごとにこのような野外活動をするようにしたい。スキー教室は子ども会でも行われているようであるが、こうした自然とふれあう機会や、知らない友達との短期間の団体生活は、活動を通じ、思いやりや、仲間意識など、普段なかなか経験の出来ない多くのことを学ぶ良い機会と考えている。ぜひ、多くの子供たちに経験してもらいたい。

(文責：ジュニア・普及委員会 西内 博)



## 第53回 Mountain World

### 冬季ブロード・ピーク 初登頂と遭難

池田常道

1月号の本欄で、パキスタンの冬季8000m峰に挑む各隊を紹介した。結果は、ナンガ・パルバット(8126m)で4隊すべてが敗退し1人が行方不明、ブロード・ピーク(8051m)ではポーランド隊が3月5日に冬季初登頂を達成したものの、登頂者4人のうち2人が行方不明となった。冬季8000m峰登山のレジェンド、クシストフ・ヴィエリツキ(62)が隊長を務めるポーランド隊は、クライマー4人にパキスタン高所ポーター3人を加えた編成で、1月15日までにBC入りする予定だった。スカルドでマイナス22℃を記録するという10年来の寒波の影響で遅れたものの、なんとかBCに着いた。なお、必要な物資は前年秋のうちに荷上げされており、キャラバンは20人のポーターを伴っただけで行なわれた。前回(2011年)のときは真冬のキャラバンに同行するポーターを集めるのに苦労したが、今回はスムーズに運んだという。

ルートは通常ルートの西稜に取り、1月23日からさっそくルート作業を開始、2月16日には7150mのC3に達して頂上攻撃の態勢をととのえた。しかし、アダム・ビエレッツキとアルトゥール・マウエクの攻撃は7820m地点でクレバスに阻まれ、マチェイ・ベルベカとトマシュ・コヴァルスキもC4(7400m)から5時間登ったところで強風のため敗退した。

その後しばらくは悪天候が続いたので一行はBCまで退却、暇を見てK2のBCまで往復した。有名なギルキー(1953年遭難)のほかにも多くの追悼銘板が設置されているなかに、ハリナ・クルーガー＝シロコムスカ(1982年)やヴォイチェフ・ヴルシ、タデウシュ・ピョトロフスキ(ともに1986年)といった同朋の名前を見出すことができた。

3月1日、4日後には好天の窓が訪れるという予報がもたらされ、頂上攻撃は5日と決まった。3日にBCを出てC3に一泊、4日C4に泊まって5日登頂というプランである。6日から天候は再び悪化するという予報なので、全く予備日のない計画だった。

ビエレッツキ、マウエク、ベルベカ、コヴァルスキの4人は5日、頂上めざしてC4を出て12時30分、主



頂上に立つアダム・ビエレッツキ セルフポートレート

稜線のコル(7900m)に飛び出した。ここから2つのチームに分かれて登るが、前衛峰(通称ロッキー・サミット、8027m)までは予想外に時間を食った。夏には問題ない個所も雪と氷の状態がよくなかったためであろう。4人は16時、前衛峰に達して、ビエレッツキとベルベカがそれぞれBCの隊長に報告、時刻は遅いがそのまま頂上へ向かうと伝えてきた。

頂上に立ったのは、まずビエレッツキが17時20分、マウエクが17時50分、ベルベカとコヴァルスキは18時だった。4人は仲間を待つことなくすぐさま下降にかかった。ところが、コヴァルスキは急激に衰えてスピードが鈍り、ベルベカも後方に取り残されてしまう。無線機を持っていたコヴァルスキはBCとコンタクトしていたが、コルに戻ったと告げてきたのは翌日、なんと12時間もたってからだった。彼はしばし先行するベルベカの姿を認めたと言ったが、幻覚だった可能性も否定できない。2人の消息はそれっきり失われてしまった。コヴァルスキは、おそらくコルで力尽き、ベルベカはそこからの下りでクレバスに落ちたものと推測されている。ベルベカはマナスル(1984年)、チョー・オユー(1985年)に続く3座目の冬季8000m峰登頂成功であり、88年3月にはブロード・ピーク前衛峰にも登っていた。ビエレッツキがC4に帰ったのは22時10分、マウエクは翌日午前2時だった。2人はしばらく休んだあと別個に捜索に出たが、疲労のため、さして高くまでは行くことはできなかった。

なお、ポーランド隊は1980年のエヴェレスト(8848m)に始まって9座の8000m峰冬季初登頂に成功。2005年のシシャパンマ(8027m)にもピョートル・モラフスキがシモーネ・モーロ(イタリア)と登頂しているの、これまでに登られた12座中10座の冬季初登頂にポーランド人が関与している。



ご存知  
ですか？

# ～日本山岳協会山岳共済会会員様限定～ 「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険」のおすすめ

約52%  
割引!!



●このチラシは保険の特徴を説明したものです。詳細はパンフレット「山岳共済会の山岳遭難・捜索保険のご案内」をご覧ください。(パンフレットは日山岳協会山岳共済事務センター宛ご請求ください。)

## この保険の主な補償内容

- ・登山中のケガで死亡された場合 (※加入タイプによってはケガによる入通院を補償対象とすることができます。)
- ・登山中に遭難し、遭難・捜索費用や救援者費用が発生した場合 等
- ・なお、登山・ハイキング中だけでなく、日常生活や業務中に起こった傷害事故も補償の対象となります。

## この保険のご加入条件

- この保険は「日本山岳協会山岳共済会」が契約者となる団体傷害保険です。お申込人(=被保険者(補償の対象者))となれる方は「日本山岳協会山岳共済会会員」のみとなります。
- 会員になる為の手続き方法は、山岳共済会ホームページ掲載の「山岳共済会のしおり」をご確認ください。(毎年別途会費が必要です。)

## 補償内容・保険料表 (詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。)

～「登山コース」の保険料例～

### 職種級別 A

(1) 保険始期日が4月1日の方

#### 入院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間\*で入院は171件、通院は304件のお支払い  
事実がありました。(※平成23年10月1日～平成24年10月1日の支払実績)  
1Bセット・1Cセットなら、1年間1万円前後の保険料でケガによる  
入院にも備えることができます!



保険金額 タイプ名	契約基本タイプ							
	1S	S	1B	B	1C	C	1E	E
死亡・後遺障害	100万円	100万円	159万円	159万円	235万円	235万円	500万円	500万円
遭難捜索費用	100万円	100万円	150万円	150万円	200万円	200万円	500万円	500万円
入院保険金日額	1000円	なし	1000円	なし	1500円	なし	2500円	なし
入院を伴う手術保険金※1	○		○		○		○	
通院保険金日額	600円		600円		900円		1500円	
賠償責任	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円	1億円
<b>保 険 料</b>	<b>6,450円</b>	<b>3,900円</b>	<b>8,260円</b>	<b>5,710円</b>	<b>11,540円</b>	<b>7,720円</b>	<b>23,940円</b>	<b>17,570円</b>

※1 手術保険金は、入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍、20倍、40倍の額をお支払します。

～「ハイキングコース」の保険料例～

### 職種級別 A

(1) 保険始期日が4月1日の方

#### 通院補償付タイプがおすすめ!

昨年からの1年間\*で入院は171件、通院は304件のお支払い  
事実がありました。(※平成23年10月1日～平成24年10月1日の支払実績)  
IIセット・新設のIIIセットなら、ケガによる通院にも備えることが  
できます!



保険金額 タイプ名	契約基本タイプ		
	I	II	III
死亡・後遺障害	150万円	250万円	300万円
救援者費用	300万円	300万円	500万円
賠償責任	1億円	1億円	1億円
入院保険金日額	2,000円	4,000円	5,000円
入院を伴う手術保険金	入院を伴う手術の種類に応じ入院保険金日額の10倍、20倍、40倍の額をお支払いします。		
通院保険金日額	なし	1,500円	2,500円
<b>保 険 料</b>	<b>2,140円</b>	<b>5,470円</b>	<b>7,540円</b>

新設しました!

- 「登山コース」は、ピッケル、アイゼン、ザイル等の登山用具を使用する登山中の事故を対象としております。一方、「ハイキングコース」は前記の登山用具を使用しない普通の登山(ハイキング等)中の事故を対象としています。
- このチラシの保険料は一例です。ご加入者様のご職業によって保険料が異なります。詳しくはパンフレットをご請求のうえ、ご参照ください。
- どのタイプでもご加入できますが複数タイプ・セットのお申込みはできません。(全ての加入タイプ・セットのうちいずれか一つのみ選択可能。)
- 保険金額はご加入いただいた被保険者の人数に従った割引率で決定されますので、募集の結果上記と異なる保険金額に変更される場合があります。この場合、死亡・後遺障害保険金額を割引率に応じた金額とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。
- 保険期間は平成25年4月1日～平成26年4月1日となります。毎月、パンフレット掲載の所定の日付での中途加入も受け付けております。

お問い合わせ及びパンフレット請求先: 日本山岳協会山岳共済事務センター

月～金 10:00～17:00(土・日・祝祭日除く)

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-7-11-707

電話 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

Eメールアドレス sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

ホームページ <http://sangakukyousai.com>

契約者: 日本山岳協会山岳共済会

取扱代理店: 瀬田工業有限会社

引受保険会社: 三井住友海上火災保険株式会社

承認番号: B12-102339 使用期限: 2014.4.1

日 時 平成25年2月28日(休)  
17:30~20:20  
場 所 岸記念体育会館103会議室  
出席者 内藤、國松、八木原、松元  
副会長、尾形専務理事、西内、佐藤、石倉、高山、水島、北山、相良、谷口、寺内、永井各常務理事  
委 任 神崎会長、仙石、堀井常務理事、以上15名出席  
同席者 蛭田指導常任委員

### 1. 専門委員会動静

2月常務理事会以降

(2月7日~2月27日)

#### [報告]

##### (1)国際委員会

2月12日(火) 出席者13名

ア 第51回海外登山技術研究会の準備について

イ 平成25年度の事業計画について  
・平成25年度国際委員総会と海外登山遭難対策研究会について

##### (2)普及ジュニア委員会

2月16日(土) 出席者5名

ア 中高年安全登山指導者講習会について

イ ジュニア普及情報交換会の準備について

ウ ジュニア登山教室「那須甲子雪遊び隊」について

・参加者配布用菜作成について  
・現地打ち合わせ(2/23)について

##### (3)自然保護委員会

2月19日(火) 出席者13名

ア 1月常任委員会議事録の確認

イ 2月常務理事会報告

ウ 第9回スポーツと環境担当者会議報告

エ 山岳団体自然環境連絡会報告

オ 「山のセミナー」(長山協主催)報告

カ 平成25年度事業計画と予算について

キ 山岳自然保護の集い・中央大会実施(案)について

ク 常任委員研修会について

・5/18~19、御前山

ケ 自然保護指導員のグリーン・カード及び腕章について

##### (4)競技委員会

2月21日(休) 出席者19名

ア 平成25年度予算編成会議報告

イ 2月常務理事会報告

ウ 平成24年度評議員会報告

エ 第8回ボルダリング・ジャパンカップ大会の準備状況

オ ユース日本選手権大会の準備状況

カ 山岳スキー小委員会報告

・第8回山岳スキー競技日本選手権大会について

・世界選手権大会報告

キ アイスクライミング小委員会報告

・北海道下川町現地往訪報告

ク トラン小委員会報告

・国際トラン会議で提起された定義他について

ケ 国体後催催の準備状況について

コ 競技ブロック別研修会報告

サ 国体役員特別研修会報告

シ 国体山岳競技規則集改訂について

ス 東京国体の審判長、副審判長、中央総務、主任審判員、チーフ・ルートセッター等の選出について

セ 平成25年度競技委員総会について

ソ 平成25年度以降のブロック研修会の開催方法について

タ ブロック代表の選出方法について

チ 選手登録料の値上げについて

ツ 全国ルートセッター研修会につ

## 寄贈図書

寄贈本	(株)昭和堂編集部	『続 生老病死のエコロジー』奥宮清人・稲村哲也編
雑誌	(株)山と溪谷社	「ROCK&SNOW」059
	東京新聞	「岳人」No.790 2013 APRIL
会報	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」2013年4月
	飯豊連峰保全連絡会	飯豊連峰保全連絡会ニュースレター
	兵庫山岳連盟	「兵庫山岳」第549号
	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第396号
	(一財)日本万歩クラブ	「帰れ自然へ アルク」2013 4・5
	福岡山の会	「せふり」No.355 平成25年3月
	(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.419
	中平等新一	やまびこ山想会(仲間たちの山行記録)写真集2010-2012
	(株)スクールパートナーズ	「高校生新聞・高校生スポーツ新聞」第204号
	(公社)全日本ボウリング協会	「JBC news」第496号
	長野県山岳協会	「やまなみ」No.208
	明治大学山岳部炉辺会	「炉辺通信」No.173
	中華民国山岳協會	「中華山岳」233
	(公財)日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2013.3.10 No.281
	信州大学山岳科学総合研究所	「山岳科学総合研究所ニュースレター」第36号 2013年2月
	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第303号
	(公財)日本体育協会	「体協スポーツニュース・フェアプレニュース」2013年3月11日号
	立山・剣岳方面遭難対策協議会事務局	山岳遭難白書「平成25年試練と憧れ」
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」4月 No.458
	KOREAN ALPINE FEDERATION	「大山聯」2013 March vol.171
	(一財)自然公園財団	「国立公園」711 MAR.2013
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」Vol.6 2013 03-04
	(公財)日本体育協会	「Sports Japan」特別号 2013 03-04
日本フリークライミング協会	「Free Fan」#067 2013 Spring	
日本フリークライミング協会	「安全BOOKS」3	
(公社)日本山岳会	「山」No.814 2013年3月号	
東京野歩路会	「山嶺」Vol.90 No.997	
大阪府立体育会館	「季刊 府立体育会館」No.104号	
信州大学山岳科学総合研究所	「山岳科学総合研究所ニュースレター」2013年3月 第37号	
(一財)熊本国際観光コンベンション協会	「くまもと観光コンベンションニュース」2013 Spring	
日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」第397号	
(公社)日本山岳会 自然保護委員会	「木の目 草の芽」第103号	

いて

- ・参加者の旅費補助の廃止
- (5)遭難対策委員会  
2月27日(水) 出席者8名
- ア 日本登山医学会第1回ファーストエイド講習会の報告
- イ 平成25年度委員総会について  
・6/22(土)~23(日) 大阪
- ウ 平成25年度全国山岳遭難対策協議会について  
・7/3(水) 文部科学省講堂

2. その他の重要事項

(2月7日~2月27日)

[報告]

- (1)スポーツクライミング記者会見  
2月7日(水) 於:岸記念体育会館 神崎会長、尾形専務理事、中川事務局長
- (2)第7回山岳スキー競技世界選手権大会 2月8日(金)~16日(土) 於:フランス・ペルヴユースキー場 笹生常任委員、藤川健、石橋恭、小川壮太、田近郁美、杉村航選手
- (3)組織WG会議 2月9日(土)  
於:日山協事務局 八木原副会長、西内常務理事、北村憲彦
- (4)氷雪技術研修会 2月10日(日)~11日(月) 於:大山 永井常務理事
- (5)スポーツ団体マネジメントセミナー 2月13日(水) 於:味の素トレセン 尾形専務理事
- (6)山岳遭難対策中央協議会幹事会(第3回) 2月15日(金)  
於:文部科学省会議室 西内常務理事、中川事務局長
- (7)アイスクライミング・ジャパンカップ打合せ 2月15日(金)  
於:北海道下川町 寺内常務理事、小野理事
- (8)ジュニア普及情報交換会 2月16日(土) 於:国立オリンピック記念青少年総合センター 神崎会長、本木顧問、八木原副会長、

- 西内、仙石、谷口常務理事
- (9)北海道ブロック競技研修会  
2月16日(土)~17日(日) 於:北海道札幌市 寺内常務理事、佐藤常任委員
- (10)近畿ブロック競技研修会  
2月16日(土)~17日(日) 於:奈良県 西原、山本常任委員
- (11)2013山岳スキー競技アジア選手権大会 2月16日(土)~17日(日)  
於:韓国 佐伯常任委員、伊藤吉昭、伊藤真由恵、山田宏、三浦祐司、横山峰弘選手
- (12)平成24年度評議員会 2月17日(日) 於:THP渋谷カンファレンスセンター 神崎会長ほか57名
- (13)「那須甲子雪遊び隊」打合せ  
2月23日(日) 於:国立那須甲子青少年自然の家 本木顧問、西内、仙石、谷口常務理事
- (14)第8回ボルダリング・ジャパンカップ 2月23日(土)~24日(日) 於:駒沢オリンピック公園屋内球技場 北山、寺内、高山常務理事
- (15)第51回海外登山技術研究会  
2月23日(土)~24日(日) 於:八王子セミナーハウス 神崎会長、坂口、国澤顧問、八木原副会長、尾形専務理事、佐藤常務理事
- (16)山岳7団体自然環境連絡会  
2月26日(火) 於:労山 石倉常務理事、岩崎常任委員
- (17)JAC打合せ 2月27日(水)  
於:JACルーム 内藤副会長、尾形専務理事
- (18)プロジェクト・チーム会議  
2月28日(木) 於:岸記念体育会館 内藤、國松、八木原、松元副会長、尾形専務理事、西内常務理事、小野寺事務局長
- (19)公認スポーツ指導者養成団体連絡会議 2月28日(木) 於:フォーラムエイト 蛭田常任委員、小野寺事務局長

3. 議事

- (1)平成24年度2月常務理事会議事録の承認について(承認)
- (2)平成24年度評議員会議事録の承認について(2字訂正で承認)
- (3)平成24年度第2回理事会及び臨時総会議案について(承認)
- (4)選手登録費の改定について(提案理由書を添える事で承認)
- (5)参与候補者の推薦について(提案通り承認)
- (6)顧問弁護士について(提案通り承認)
- (7)平成25年度自然公園指導員表彰候補者の推薦について(自然保護委員会に一任で承認)
- (8)報告事項  
ア ハイキングリーダー制度の中間報告  
イ 新ロゴマークについて  
ウ PT会議とWGの経過報告  
エ 公益社団法人の役員について  
オ 第7回山岳スキー競技世界選手権報告  
カ 平成24年度山岳遭難対策中央協議会幹事会報告  
キ オーバーナイト・テントフォーラムの開催について

4. 後援、協賛等の依頼について

- ア 日本山岳写真協会展「2013山われらをめぐる世界」の後援名義について(日本山岳写真協会)(承認)

編集後記

新年度が始まり何かと忙しい。山岳遭難対策中央協議会は、大型連休前後の登山者に、事故抑止目的で毎年「連休登山の警告文」を配布し、計画の重要性と登山届の提出を呼び掛けている。ベテランも新人も一読を。  
(広報担当 水島彰治)

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

蛭ヶ岳山荘 TEL:090-2252-3203(衛星電話)

神の川ヒュッテ TEL:042-787-2276

和峠「峠の茶屋」TEL:042-687-2882

理事長・代表 杉本憲昭

NPO法人 北丹沢山岳センター

事務局 〒252-0184 神奈川県相模原市緑区小淵1545-1  
TEL 042-687-4011 FAX 042-687-3980  
E-MAIL kitatanzawa@kib.biglobe.ne.jp

- 北丹沢12時間山岳耐久レース実行委員会
- 陣馬山トレイルレース実行委員会
- 上野原トレイルレース実行委員会
- 東丹沢宮ヶ瀬トレイルレース実行委員会

大会々長 杉本憲昭

登山月報 第529号

定価 100円(送料別)  
予約年間1,200円送料共  
昭和45年12月12日  
第三種郵便物認可  
(毎月1回15日発行)

発行日 平成25年4月15日  
発行者 東京都渋谷区神南1の1の1  
岸記念体育会館内  
公益社団法人日本山岳協会

電話 03-3481-2396  
FAX 03-3481-2395